

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873800290
法人名	西予総合福祉会
事業所名	グループホーム うつのみやさんの家
所在地	愛媛県西予市宇和町田苗真土1994-1
自己評価作成日	平成28年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成13年岩城地区に民家改修型の建物で開設(定員6名)。建物の老朽化により、平成26年中川地区に定員9名で新築移転した。隣接地には同法人のデイサービス、ショートステイ、学童の機能を持つ「ななほし中川」があり、交流をしている。中川地区の地元利用者が4名いたり、中川ななほしのサービス利用者が入所したり、住み慣れた地区、通い慣れた地区での生活で安心できているのではないかと思います。また、利用者の会話で得られた情報を、活動の中に取り入れたり、体調不良の利用者や認知症の周辺症状において家族と連携を取り、本人が安定できる取り組みを行う事ができているのではないかと思います。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●ホームページのブログで取り組みを発信している。又、3ヶ月ごとに事業所便りを発行して、利用者の暮らしぶりを報告している。職員紹介や4月の管理者交代の際にも報告を行った。家族には、来訪時や電話で小まめに報告、連絡を行っており、気さくに声をかける等して話しやすいように雰囲気を作っている。今回の外部評価に際しての家族アンケートでは、サービスに対する家族の満足度が高い。 ●愛媛県地域密着型サービス協会が主催する研修に意欲的に参加しており、賞状をもらっている。相互研修に参加した職員は、事業所便りに感想を載せていた。 ●居室に位牌を持ち込んでいる方は、職員が用意したしきびを飾っていた。本人がお茶を毎日供えられるよう支援しており、シルバーカーで茶湯器をうまく運べるよう、牛乳パックを使って入れ物を工夫していた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム うつのみやさんの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

門多 マリカ

評価完了日

平成28 年 8 月 25 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念を共有出来るように、目の付く所に掲示している。利用 者が地域の一員として生活できるよう、地域の行事に参加し たり、近所の散歩などを通じて、交流出来るよう支援してい る。	
			(外部評価) 「一人ひとりの人格を尊重し、生き生きと地域の一員として生 活できるよう支援する」と理念をつくり、居間等に掲示してい る。事業所便りや運営推進会議時にも、理念や目標につい て説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 散歩時にお花をもらって話しをしたり、近所の方から野菜を 頂いたりしている。敬老会、盆踊り、運動会、文化祭など、地 域の行事に参加して交流を持つ機会をつくっている。また、 隣接地のななほし中川デイとは、年二回の合同イベントが あったり、散歩の時などデイ利用している地元の方との交流 もしている。	
			(外部評価) 事業所の所在が分かるように、新たに看板を設置した。市民 グループの見学を受け入れている。近くの保育園や小学校 との交流がある。運動会や学習発表会に招待があり、利用 者の席を用意してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進委員会で話しをしている程度。今後、認知カフェ 等、地域を巻き込んだ取り組みの必要性は感じている。 地 域の人々に向けての貢献は出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、事業報告や日々の取り組み等報告して いる。前年度には運営推進会議を通じて、畑の作物の収穫 を行ったり、サービス向上に繋がる事例もあった。今後も取 組みや状況、ヒヤリ等も報告し、情報取組みを理解してもら い、サービスの向上に繋げたい。	
			(外部評価) 新たに保育園の園長が参加してくれている。会議では、利用 状況や活動の報告を行い、併せてAEDの講習会を行ったり 、災害対策について話し合ったりしている。家族には文書 と口頭で案内しているが、都合等もあって参加に至っていな い。今後さらに、利用者や家族が参加できるように工夫して、 利用する側からの意見等も聞いてほしい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、取り組みを紹介したり、実情 を伝えて協力関係を築くようにしている。(西予市では、キン トーンのアプリで包括、市、他事務所と情報共有出来るシス テムもある。)	
			(外部評価) 看板を設置する際には、市の担当者からアドバイスがあっ た。広報誌に利用者の川柳作品を投稿できるよう支援してい る。アプリを利用して市や地域の最新情報を得たり、やり取り を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束しないケアを理解し、実践している。夜間のみ施錠 している。(窓、玄関)	
			(外部評価) できるだけ自分の足で歩けるように支援している。又、車い すを使用する利用者もソファに座ったり、横になったりして 過ごせるような時間を作っている。ベッドからの立ち上がり時 等に転倒の心配がある方には、ベッド下にセンサーを設置し ており、台所で音楽が鳴り、利用者の動きが分かるようにして いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加出来ている。職員各自、利用者の関わり等、利用者主体に対応し、虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要とする利用者がいないので、権利擁護の支援はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が契約の説明を行い、理解して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々、利用者と話しを行い、ニーズを探りだせるよう努めている。家族の面会、通院時に、意見等聞き、連絡ノートや職員会で周知し、反映させている。 (外部評価) ホームページのブログで取り組みを発信している。又、3ヶ月ごとに事業所便りを発行して、利用者の暮らしぶりを報告している。職員紹介や4月の管理者交代の際にも報告を行った。家族には、来訪時や電話で小まめに報告、連絡を行っており、気さくに声をかける等して話しやすいように雰囲気を作っている。今回の外部評価に際しての家族アンケートでは、サービスに対する家族の満足度が高い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			管理者とは日常及び職員会で話し合い、意見や提案を行っている。出来る事から改善している。 施設長とは年に1回の面談がある。	
			(外部評価)	
			職員会議時に、意見や提案を出して皆で話し合いながら取り組みをすすめている。愛媛県地域密着型サービス協会が主催する研修に意欲的に参加しており、賞状をもらっている。相互研修に参加した職員は、事業所便りに感想を載せていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			法人の人事考課制度、OJTの取り組みで職場環境・条件の整備に努めている。休憩時間が取りにくく、確保できるよう努めている。職員を増やせるよう働きかけたい。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			年間での研修計画立てている。研修案内等も周知して、自ら研修出来る機会も促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			H27年度、H28年度と相互研修に職員2名ずつ参加し、他事業所の取り組みを勉強。サービス向上に繋げている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			表情の変化などを観察し、話しを傾聴する事で不安部分を見つけ対応出来るよう心がけている。安心して生活出来る関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 職員は、管理者(ケアマネ)、家族、本人から情報収集を行い、共有している。サービスの利用を開始する段階で、担当ケアマネより情報を頂き、家族の話しに傾聴し、安心して生活出来るよう関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前の情報を家族の了承を得て収集し、職員間で話し合い対応している。生活環境の変化に伴い、必要としている支援が提供出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりの身体状態や周辺症状の様子を見極めつつ、家事等の生活動作等、出来る事をして頂き、それぞれの役割を持って生活出来るよう、支援に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話、面会、広報等を通じて、情報を共有出来ている。緊急時の対応で、家族と連携を取りながら、本人の安心に繋がるよう、家族の思いを大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出する際に、馴染みの場所(自宅周辺 思い出の場所)へ行く計画を立てたりして、知人との会話を楽しまれている。利用者の方の友人、知人の方が訪問しやすい環境をつくっている。 (外部評価) 以前、子どもとかかわる仕事をしていた利用者には、保育園児との交流を楽しめるよう支援している。地名を出しながら話せる等、利用者が馴染みやすい話題で話が弾むよう配慮している。利用者の自宅近所の方と親しくなり、ボランティアに来てくれるようになった事例等もあり、人と人のつながりを大切におつきあいをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士、交流が出来ているメンバーもいるが、出来ない方もある。職員一人ひとりが、状態を見て、声を掛け、理解を求めたりと心掛けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 御家族の都合で退去された利用者もいる。御家族より、意向もなく、相談や支援には繋がっていない。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向を把握するようにしている。何か取り組む事があれば、報告、相談し、その人らしく生活出来るよう支援している。 (外部評価)	
			意向を言葉で表せない利用者については、本人が求めていることの把握に難しさがあるが、併設デイサービスから利用となった方については、デイや居宅介護事業所からの情報も参考にしながら支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の方からの情報もあるが、日常の生活の会話の中で、本人から得る情報が多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェック、排便状態、食欲などをチェックして、一人ひとりに声を掛け、表情などの観察を行い、現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎月職員会で話し合い、モニタリング実施している。計画を作成している。御家族へは、電話や面会等にご意向や対応について相談し、ケアプランに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			毎月の職員会議時に、介護計画の進捗状況を含め利用者の状況について話し合っており、6ヶ月ごとに計画を見直している。介護計画は、できることを行えるようなプラン作成に心がけている。さらに、介護計画に沿ってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して日々の支援につなげていってほしい。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			特に体調の変化等の対応には、家族の状況に応じて柔軟な支援を行っている。家族の協力も得たり相談して、職員で対応出来ることは行いたい。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	(自己評価)	
			地元の利用者が入所されており、地元との交流が出来るよう支援している。(そうめん流し、新年会、運動会など)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	(自己評価) 4名が家族による受診支援を受けている。必要に応じて、バイタルや食事量、本人の様子をメモやノートに記して、連携を図っている。訪問診療も3つの医療機関を受け入れている。施設による通院も支援している。	
			(外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医に診てもらえるよう支援している。家族の意向で、往診が可能な医療機関に移ったり、治療方針の相違等により移るようなケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員の配置無し。利用者が入所前に利用していた隣接施設の看護師に相談しアドバイスを貰うこともあった。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の情報提供及び、入院中の様子伺いを行い、主治医からの説明を設けている。退院時には、主治医と連携を図り、サマリー等の提供を受け、安心して生活が支援出来る関係づくりに努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) H28年5月に看取りを行ったが、そのケースでは、家族と主治医との話し合いを行い、方針を共有出来ていた。ただ、看護職員不在の中で、不安を抱える職員が多く、看取りの体制は出来ていない。	
			(外部評価) 浴室にリフト浴を整備して重度化にも対応している。現在2名の方が利用して入浴を行っている。現在は、医療連携体制は整備されていないが、管理者は、併設デイサービスの看護職員に相談することがある。	現在、体調が不安定な利用者が複数おり、受診の判断等、職員の不安点もある。又、健康管理面に不安を持っている家族もあり、医療連携体制の充実を望む声もある。この機会を活かして、安心への体制づくりについて検討してみたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習を毎年受けている。当施設にAEDも配置し、すぐに対応出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 施設前に川がある為、避難する場所について協議していた。近隣住民の好意で、フェンスの開閉が出来るようになり、災害時、隣の畑へ避難出来ることとなった。 (外部評価) 年2回の避難訓練時は、日中、夜間の火災を想定して行っている。又、風水害時の対応についてマニュアルを作成している。備蓄は3日分用意している。伊方原発災害時には三間町のグループホームに受け入れてもらうようになり、事業所便りを送付している。運営推進会議時には、地震等災害時の対応について話し合ったり、心肺蘇生法の講習等を行った。	災害はいつ起こるか分からないことでもあり、災害時のいろいろな場面を想定して避難訓練を繰り返して行ってほしい。さらに、地元での自主防災の取り組み等の情報も得て、協力体制作り積極的に取り組んでほしい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉掛けの内容、口調、目線、声の大きさ、トーン、間合いなどに注意して、利用者の人格を尊重しながら対応している。また、排泄の失敗などプライバシーを損ねない対応をしている。 (外部評価) 利用者のできる力を活かした支援に取り組んでおり、洗濯物干しや雑巾縫い、切り干し大根作り等を行えるよう支援している。そうめんのだしは、利用者が味見しながら作ってくれる。職員は、利用者のそばでゆっくり穏やかな口調で、又、馴染みの言葉で話しかけていた。利用者の状態や様子をみながら、個々に合わせて生活できるような支援に取り組んでいる。ひ孫さんが来た時におこずかいをあげたい利用者には、家族と相談して当日、馴染の財布にお金を入れ枕の下に用意している。天草でところてんを作ることが話題になり、熱心に話をしてくれるような方がいた。ところてんを作る時には、亡きご主人手作りのところてん突きを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の意思を大切に、自己選択出来るよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースを大切に対応しているが、夜間時は出来て いない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 外出時の洋服選び、爪きりなど身だしなみは、こまめに行っ ている。訪問美容院や馴染の美容室を利用している。眉を 描く利用者がいる。衣類が汚れてた時(食べこぼし等)には、 更衣している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人が負担を感じないよう、利用者の出来る範囲で、食事の 下ごしらえなどを一緒に行っている。味付けの助言もして頂 いている。 (外部評価) 昼食時には、職員も一緒に席に着き、食事内容を伝えなが ら同じものを食べていた。箸が進まない利用者には、ご飯の 上にお好きな煮豆を乗せて「豆だけでも食べて」と勧めたり、 梅干を出したりしていた。又、カボチャが好きな利用者には、 少し多めに盛る等して食事がすすむよう支援していた。残す 方には、バナナを足したり、「息子さんから預かったよ」と、み かんを出していた。利用者が食べ物を口に運べるよう、職員 が食べて見せているような場面も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量が少ない人には、好物を用意して摂取の促しをして いる。水分補給の促しもこまめに行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの支援をしている。不穏な時には時間を 置いて対応したり、無理じいはしないようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			本人の希望をもとに、トイレ誘導している。自力でトイレに行けない方は生活リズムのパターン等で誘導を行い、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。排泄チェック表、記録を活用している。	
			(外部評価)	
			尿意を表さないような利用者について、時間を決めて誘導することでトイレで排泄ができるようになったケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分摂取、バランスの良い食事、運動などを取り入れる支援をしている。医師と相談して、下剤量の調整も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			基本2日に1回。午後入浴。入浴の順番、なるべく意向に添えるよう配慮しているが、来ていない時もある。同性介助希望者には、対応している。	
			(外部評価)	
			冬場の洗身の際は、足湯しながら行えるよう用意している。入浴の順番について「最後でええわい」という利用者が多いが、利用者の体調とタイミングをみながら、声かけ等を工夫して支援している。利用者によっては、着替えの準備ができるように、居室のタンスの上に用意するものを書いた紙を置いているところがあった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			その日、その人の状態に応じて、日中休養される方もいる。就寝前は、関わりを大切にして、安眠出来るよう支援している。(足浴、会話等)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を確認し、内服薬の把握をしている。誤薬防止に、職員2人でチェックする体制を整えている。医師より、症状の変化等の示唆があった場合は、引継ぎ等で情報を共有し、状態観察を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	(自己評価) 一人ひとりに応じた役割(洗濯物干し、畳み、掃除、食事準備等)の取り組みを支援している。入所前の趣味(川柳 生け花)の支援したり、外出行事も支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調不良者もあり、職員数との兼ね合いで、戸外に出かけられる日が少しずつ少なくなっている。可能な日は、買い物、ドライブ、散歩の支援をしている。地域の方との外出は、リスク面もあり、対応していない。 (外部評価) 利用者個々の体調等も見ながら外出を支援している。保育園まで散歩してチャボのえさやりをしたり、レンゲ祭りの前夜祭花火大会を見に行ったり、山田薬師の花祭りに参加したりできるよう支援している。自宅の近くをドライブしたり、喫茶店等で外食したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理している利用者は、所持金の確認をしている。本人から希望があれば、使えるよう支援している。自分で管理する事が困難な方については、家族の承諾を得て預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 贈り物が届いた時には、お礼の電話をしている。暑中見舞い、年賀状のはがきを書く事の出来る方には、書いて頂いている。広報誌を送ったりして繋がりを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			壁画や花などで、季節間を感じて頂けるよう努めている。空調や足元灯などで、居心地良く、安全に過ごせるよう支援している。	
			(外部評価)	
			玄関前には萩の花を生けていた。玄関を入ると食事ができる匂いがしていた。調査訪問時には、居間で運動会の練習を行っており、利用者と職員でハチマキをして運動会の歌を歌ったり、玉入れを行っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			安心して過ごして頂けるよう、ソファの席の配置などを考えて行っている。一人で自室で過ごされる方など、利用者一人ひとりが過ごしやすように支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			ダンス、位牌、家族の写真などを持ち込まれている方がいる。利用者が居心地の良い居室の状態になるよう、職員間、本人や家族と相談し、整理するよう努めている。	
			(外部評価)	
			居室に位牌を持ち込んでいる方は、職員が用意したしきびを飾っていた。本人がお茶を毎日供えられるよう支援しており、シルバーカーで茶湯器をうまく運べるよう、牛乳パックを使って入れ物を工夫していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			利用者によってベット、ダンスの位置、カーペット、滑り止めマットなどを使用して、安全かつ自立した生活が送れるよう配慮している。	